

1

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

患いは人生につきものだけれども、ひとが人生で患うのは、かならずしも病気とはかぎらない。かつて大正のころ、デモクラシーを神経衰弱の薬、レーニンを毒薬の名とおもっていた人がいたそうさ。人生においては、孤独だって患いだし、恋だって患いだ。しかし、どんな患いよりも、どんな病気よりさえも、ひとがなによりほんとうに怖れている患いといったら、まずそれは退屈にちがいない。

退屈にくらべれば、どんな患いだって、所詮は(1)他愛ないといふべきだ。どんな患いだって、けっして最悪のものでないからだ。だが、退屈というのは、どうしようなく最悪である。退屈な時間というのは、最悪の時間である。退屈な人間というのは、最悪の人間である。あたかも今日の(注1)緋文字のごとくなのが、退屈なのだ。

ところで、猫である。ひとにとって最悪の患いである退屈というものをてんから理解しようとしてもしないものがあるとすれば、それは猫だ。猫といふのはすべからず退屈そのものを生きていて、しかもひととはちがいで、退屈であることをすこしも最悪となんかおもってもいない。むしろ退屈はたのしむべきものとよくよく心得ている、といったふうなのだ。ひとと猫とはともに暮らしていても、退屈について、まったく異なる価値感を抱いていて、一緒の場所にいながら、まったく異なる時間を過ごしている。

猫たちと一緒に暮らしていると——長いみごとな尻尾をもった三匹の猫が、わたしの日々のもっとも親しいアイ(注2)ボウなのだが——退屈について、退屈が今日の緋文字だなんて、どうもひととはとんでもない考えちがいをしているのではないかと、むくむくと疑われてきてしかたなくなる。猫たちにしたがえば、退屈は、こころを遊ばせる最良の機会なのだ。

猫たちにしたがって、ひとの「奥床しさ」を「(注3)懶惰の美德」にもとめたのは、(2)谷崎潤一郎だ。その『細雪』の作家にして(注4)ウラヤんでついに得られなかったもの、それが猫の尻尾だった。猫にああいう尻尾があるのは何の用をなすのか分からない、まったくあれは(注5)A(注6)だとするような俗説に反駁して、谷崎潤一郎は、猫の尻尾による挨拶について考察をめぐらし、じぶんにもああいう便利なものがあつたならば、としみじみと(注7)ガイタンしている。

……試みに、猫の名を呼んでみたまえ。そうすれば、半眼に閉じた眼をわずかに開けることもせず、寂然たるもとの姿勢のまま、依然としてうつら／＼しながら、尻尾の末端のほうだけを微かに一二回、ブルン！ と振ってみせるであろう。その尾を以てする返事の仕方には一種微妙な表現が籠っていて、声を出すのは面倒だけれども黙っているのもあまり無愛想であるから、ちよつとこんな方法で挨拶して置こう、と云つたような、そして又、呼んでくれるのは有難いが実は己は今眠いんだから堪忍してくれないかな、と云つたような、(注8)オウチャクなような如才ない

ような複雑な気持ちだが、その簡単な動作に依っていつも巧みに示されるのであるが、尾を持たない人間には、こんな場合にとってもこんな^e キヨウ
な真似は出来ない。……〔客ぎらい〕

そうしてついには、「想像の尻尾」を発明して、作家はあたかもじぶんが尻尾を生やしているかのごとく想像して、おもわず尻がむずむずしてしま
うのだが、世間にむかつて「はい」とか「ふん」とかいう代わりに、『細雪』の作家はその「想像の尻尾」を振って生きてやろうと、密かに^{ひそ}こころを
決めるのだ。いわく、「猫の尻尾と違って想像の尻尾は相手の人に見て貰えないのが、残念であるが、それでも自分の心持では、これを振ると振らな
いではいくらか違う。相手の人には分らないでも、自分ではこれを振ることに依って受け答だけはしているつもりなのである」(前掲書)

つまり、作家によれば、「懶惰の美德——奥床しさ」を身にもてないのは、ひとが尻尾をもたない生きものだからだ。尻尾がないから、ひとは退屈
を怖れるのだ。みずから「想像の尻尾」を生やして、よほど尻を落ち着けてでないと、ひとは退屈をみずからたのしむことなど到底覚束ない存在なの
である。けれども、「想像の尻尾」をふさふさと生やすといつても、そう簡単にはゆかない。というのも、ひとの「想像の尻尾」というのは知性とい
う見えない尻尾で、知性というのはみずから退屈をたのしむ術だからだ。

座布団を猫に取らるゝ日向哉^{ひなたかな}(谷崎潤一郎)

退屈とどうつきあうかで、ひとの人生の感じかたは、はっきり二つに分かれる。退屈を最悪の患いとして、猫の手も借りたい忙しい人生をねがう
人と、退屈を最良の機会として、「想像の尻尾」を生やした人生をねがう人と。

猫の手か、猫の尻尾か、それが問題だ。ひとの人生の問題は、もしかしたら、ただそれだけにつきるのかもしれない。

(長田弘『感受性の領分』による)

(注1) 緋文字 〓 犯した罪の罰としてつけられた印のこと。ホーソン(一八〇四―一八六四年。アメリカの小説家)の小説『緋文字』から。
(注2) 懶惰 〓 なまけること。

問(一) 傍線部 a～e のカタカナにあたる漢字と同じ漢字を含むものを、各群のうちから一つずつ選び、その番号をマークしなさい。

a || 1

b || 2

c || 3

d || 4

e || 5

a
アイボウ

- 1 テツボウにぶらさがる。
- 2 ボウシをかぶる。
- 3 生活がキュウボウする。
- 4 お寺のホンボウに泊る。
- 5 ボウゲンをはく。

b
ウラヤんで

- 1 センメイに記憶する。
- 2 飛行機がセンカイする。
- 3 理論をジッセンに移す。
- 4 センボウの的となる。
- 5 大衆をセンドウする。

c
ガイタン

- 1 ダンガイ裁判所を設ける。
- 2 ガイトウ者は無し。
- 3 ヒガイをこうむる。
- 4 テンガイ孤独の身をなげく。
- 5 非道な行為にフンガイする。

d オウチャク

- 1 書類にオウインする。
- 2 交渉にオウじる。
- 3 芸のオウギを伝授する。
- 4 食欲がオウセイだ。
- 5 道路をオウダンする。

e キヨウ

- 1 トウキの皿に盛りつける。
- 2 経営がキドウに乗る。
- 3 問題をテイキする。
- 4 キタイを裏切る。
- 5 キボウを失わない。

問(二) 傍線部(1)「他愛ない」の意味としてふさわしいものを、次のうちから一つ選び、その番号をマークしなさい。

- 1 心もとない
- 2 取るに足りない
- 3 愛想がない
- 4 飽き足らない
- 5 仕方がない

6

問(三) 傍線部(2)「谷崎潤一郎」の作品としてふさわしいものを、次のうちから一つ選び、その番号をマークしなさい。

- 1 『五重塔』
- 2 『金閣寺』
- 3 『山椒魚』
- 4 『草枕』
- 5 『刺青』

7

問(四) 空欄 A に入れるのにふさわしいものを、次のうちから一つ選び、その番号をマークしなさい。

- 1 夏炉冬扇
- 2 灯台もと暗し
- 3 無用の長物
- 4 独活の大木
- 5 無用の用

8

問(五) 筆者は退屈を楽しむには何が必要だと述べていますか。ふさわしいものを、次のうちから一つ選び、その番号をマークしなさい。

- 1 患い
- 2 緋文字
- 3 懶惰
- 4 知性
- 5 猫の手

9

問(六) 本文の標題としてふさわしいものを、次のうちから一つ選び、その番号をマークしなさい。

10

- 1 緋文字ひまじ
- 2 猫の尻尾
- 3 ひとの患うれい
- 4 デモクラシー
- 5 猫の手

2

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

ヒトをヒトたらしめたのは疑いもなく言葉である。さらにヒトはその言葉を発展させて文化をつくり出した。こうしてヒトは「言葉にのせて文化を伝える」という遣伝外の情報伝達に成功した。これに加えてヒトは文字を発明することで、それまでの聴覚にたよった伝達（＝話し言葉）の致命的な弱点であった伝達の瞬間性を永続性のあるものに変えた。当然、文字による遣伝外情報は重視され、尊敬された。いってみれば活字が崇拝^aされていた。——これが敗戦当時の日本語の状況だった。

もとより敗戦の衝撃や戦前戦中の日本精神の過度の押しつけへの反感から、「非合理的な日本語を捨ててフランス語を国語に採用せよ」と唱える人たちも少なくなかった。占領軍の一部には「日本語はそのままでもよいが、文字が非能率的すぎる。仮名や漢字を廃してローマ字を使わせてはどうか」という意見もあり、これに賛意をあらわす人たちもまた少なくなかった。しかしこれらの考えは日本語や日本語の表記法への不信や不満ではあっても、言葉そのものに向けられたものではない。日本語よりもっとすぐれた言葉があるはずだという信仰がその底にひそんでいた。（イ）文字による遣伝外情報を重視し、尊敬すればこそその、日本語への不信であり不満であったのである。もともと異国語の国語採用案や日本語表記のローマ字化はやがて^甲沙汰やみとなり、昭和二十一年の四月ごろまでにはおさまったが、すぐに国語改革がはじまった。（一）

いま、日本語は簡略化し、単一化し、単純化しつつある。ひとことではいえば、均質の平べったいものになりつつある。

方言の使用量は激減している。その地方にしかない事物や習慣や生活感情を表現しようとすれば、その地方にしかない言葉が必要となる。そこに方言が成立していたわけだが、大量生産——大量消費という物流の巨大な網が全国を覆ってしまい、いまや「その地方にしかないもの」は少なくなった。方言が存在しにくくなったのである。（ロ）、平等意識の表面的な普及と中流意識の幻想とが待遇表現（敬語）を衰退させている。同じことが差別語についてもいえるだろう。（ハ）差別そのものが消滅したわけではないが、それは見えにくくなり、社会の底層をこっそりと陰気に流れるようになった。（二）

そして社会の上ッ面では新造の、急造の差異をつける言い方が^b氾濫している。いわく「ダサイ」「ネクラ」「イモ」「トラ（ディッシュショナル・正統派）」……これらの差異をつける言い方は猛烈な速度で変わって行き、その速度に幻惑されてほんものの差別が見えなくなっている。そのほかカタカナがふえて漢字が減り、若い世代はみな似たような丸っこい字を書き、文章は広告コピーの影響が短い。——といったようなわけで、たしかにこの四十年間に日本語は単純化し、均質化している。社会の構造が球型（あるいは梯子^{はしこ}）から平べったくなって凸レンズ型に変わったのを、日本語が忠実に映しているのである。（三）

なかでも文字の^c。衰運はいちじるしく、文字による情報は、その王座を⁽¹⁾映像による情報に明け渡した観がある。文字がどれほど軽んじられているかは近ごろの商品の命名法にもよく現れている。ながいあいだ、企業は「真面目で、それでいて魅力があつて、できれば永続して売れるものを」とねがって商品に命名していた。十かそこいらの文字に社運を賭け、またそれぞれ社の良識をも賭けていたのである。しかしいまはどうか。(二)
「佐藤くん」「鈴木くん」「さすがの明智くん」(いずれも菓子)など人名を商品名に使っている。今日の商品が、大氾濫のせいで、すべて均質になりアウラ(靈気・雰囲気)を消失してしまっているので、そのアウラを出すために人名という人懐かしいものを持つてきたのだという指摘もあるが、筆者には、各企業に「他の商品よりすこしでも目立つなら、名前などどんなにメチャクチャでもよろしい」とする思い切った⁽²⁾言語道具説が支配しはじめてるように見える。(4)

遺伝外情報としての言葉の値打ちの下落、そして映像への熱狂的な支持。これらを用意したものの代表はテレビであつたらう。たしかにテレビは時間と空間と記号の束縛から情報を解き放つた。事件が発生する。その模様は、あつという間に(時間の束縛からの解放)、どこでも(空間)、たとえ字の読めない人にも(記号)わかる。(ホ)文字による情報伝達には、執筆・印刷・製本に時間がかかり、流通手段なしではどこへも届かず、記号が解読できなければ情報を受容できないという制限がある。映像が時代の^乙寵児になるのは当然かもしれない。

さらにわれわれは歴史を直線とみなし、進化論を是としている。この論法でゆけば、つねに「いま」が歴史の頂点であるから、つねに「いま」が最良の時代で、つねに「新しいもの」が正しいという見方が生まれる。この見方が新しく登場した遺伝外情報^d媒介手段である映像をもてはやしもしたのだらう。だが、映像への過度の信仰が、思考や経験を伝え新しい智恵を生み出す「学び、考えるための言葉」の衰えにつながらなければ幸いである。言葉には欲求を伝える道具としてはたらしのほかに、この〈学び、考えるための言葉〉がある。だれかがだれかに「死ねっ」と罵声を放つとき、また事物を見ても「うっそ」「ほんと」「かわゆーい」としか言えないとき、言葉は道具の役割しか果たさない。もつといえ、相手からの情報を感じる能力に欠け、自分から相手に向かうだけの粗末で^丙尊大な情報しかないとき、ヒトは粗末で尊大なエゴイストでしかなくなるのである。(5)

ところでⁱによる情報は次の二つの理由で、まだまだⁱⁱによる情報には及ばないところがあると思われる。たとえば、「細胞内小器官—細胞—組織—器官—器官系—個体—集団—社会—生態系—地球……」という生物の階層構造は、これからますます重要になる概念であると信じるが、こういった大切な情報をⁱⁱⁱだけで表現しようとしても、それはほとんど不可能である。「会社」「国家」「制度」といった概念もまた^{iv}では表現できない。次に、^vによる遺伝外情報は^e膨大であるのに、歴史の浅い^{vi}ではまだその情報量は少ない。

生命の目的は「存続すること」にある。ヒトなら長生きすること、人類なら絶滅しないこと。われわれはそのために、ほとんど無限に近い、文字に

よる遺伝外情報を持つている。加えてわれわれには〈学び、考えるための言葉〉がある。この二つを活用しない手はない。映像による情報伝達のたす
 けを借りながらも、どれだけ⁽³⁾言語に關しては保守的になれるか、過去の遺産を再生できるか。そこに未来がかかっていると、わたしは信じている。

(井上ひさし『遅れたものが勝ちになる』による)

問(一) 傍線部 a～e の漢字の読みと同じ読みをする漢字を含むものを、各群のうちから一つずつ選び、その番号をマークしなさい。

- | | | | | | | | | | | | |
|---|------|-----|----|---|----|---|----|---|----|---|----|
| a | 崇 拝 | (1) | 傘下 | 2 | 中枢 | 3 | 糾弾 | 4 | 醜態 | 5 | 営業 |
| b | 氾 濫 | (1) | 怨念 | 2 | 寡聞 | 3 | 凡俗 | 4 | 棧橋 | 5 | 頒布 |
| c | 衰 運 | (1) | 悲哀 | 2 | 折衷 | 3 | 遂行 | 4 | 容赦 | 5 | 酸味 |
| d | 媒 介 | (1) | 铸造 | 2 | 深謀 | 3 | 崩落 | 4 | 始末 | 5 | 賠償 |
| e | 膨 大 | (1) | 相貌 | 2 | 陰慘 | 3 | 消尽 | 4 | 踏襲 | 5 | 俸給 |

問(二) 空欄 (イ) (ホ) を補うのにふさわしい言葉を、次のうちから一つずつ選び、その番号をマークしなさい。(同じ番号を二度以上選

- んではいけません。)
- | | | | | | | | | | | | |
|---|------|---|---|---|---|---|---|---|---|---|----|
| 1 | ところが | イ | 6 | ロ | 7 | ハ | 8 | ニ | 9 | ホ | 10 |
| 2 | また | | | | | | | | | | |
| 3 | たとえば | | | | | | | | | | |
| 4 | もちろん | | | | | | | | | | |
| 5 | ただし | | | | | | | | | | |
| 6 | つまり | | | | | | | | | | |

問(三) 傍線部甲「沙汰やみ」、乙「寵児」、丙「尊大な」の意味としてふさわしいものを、各群のうちから一つずつ選び、その番号をマークしなさい。

甲 11

乙 12

丙 13

甲 沙汰やみ

1 棚上げ

2 先細り

3 時代遅れ

4 立ち消え

5 差し戻し

乙 寵児

1 落とし子

2 人気者

3 先達

4 追従者

5 愛弟子

丙 尊大な

1 おごそかな

2 とうとい

3 はなはだしい

4 おおげさな

5 えらそうな

問(四) 傍線部(1)「映像による情報」についての説明としてふさわしくないものを、次のうちから一つ選び、その番号をマークしなさい。 14

- 1 進化論を是とするなら、文字の後に登場し、つねに新しいものを生み出す映像は、最良の情報伝達手段である。
- 2 映像による情報は、概念の表現力という点で、文字による情報には及ばない。
- 3 映像によって情報を伝えるテレビは、時間と空間と記号による束縛から情報を解き放った。
- 4 映像への過度の信仰は、言葉の欲求を伝える道具としての働きを助長している。
- 5 言葉の値打ちの下落と映像への熱狂的な支持は並行している。

問(五) 傍線部(2)「言語道具説」とはどのような考え方をいいますか。その説明としてふさわしいものを、次のうちから一つ選び、その番号をマークしなさい。 15

- 1 言葉は、自分の欲求を一方的に伝えるための手段であるという考え方
- 2 言葉は、音声よりも文字で伝える方が相手に伝わりやすいという考え方
- 3 言葉は、情報の伝達だけでなく思考に用いることもできるという考え方
- 4 言葉には、映像による情報伝達を補助する働きしかないという考え方
- 5 言葉には、ヒトを尊大なエゴイストにする作用があるという考え方

問(六) 本文中の空欄 i vi には「映像」と「文字」のいずれかの言葉が入ります。「映像」が入る空欄の組み合わせとしてふさわしいものを、次のうちから一つ選び、その番号をマークしなさい。 16

- 1 (ii、iii、v)
- 2 (i、iv、vi)
- 3 (i、iii、iv、vi)
- 4 (ii、iii、iv、v)
- 5 (ii、v)

問(七) 傍線部(3)「言語に関しては保守的になれるか」とありますが、言語に関して保守的であるとはどういうことですか。その説明としてふさわしいものを、次のうちから一つ選び、その番号をマークしなさい。 17

- 1 言語の単純化、均質化に抵抗して、方言や敬語のような昔から使われてきた多様な言語表現を復活させること
- 2 これまでに蓄積された文字情報を利用しながら、思考や経験を伝え新しい智慧を生み出す言葉の働きに積極的にいかかわること
- 3 たとえエゴイストといわれようとも、誰にでも理解できる映像より、選ばれた人しか理解できない文字情報を尊重すること
- 4 人類がこれまでに生み出してきた膨大な文字情報を、映像によって得られた知見を活用して丹念に読み解いていくこと
- 5 難解な概念を表現することができる言語の力を利用して、人類が今後も存続していくために、高度な知識や技術を生み出すこと

問(八) 本文から次の文が脱落しています。本文中の(1)～(5)のどこに戻すのがふさわしいですか。後群のうちから一つ選び、その番号をマークしなさい。 18

そして四十年近い歳月がたった。

- 1 (1)
- 2 (2)
- 3 (3)
- 4 (4)
- 5 (5)

問(九) 本文の内容と合致するものを、次のうちから一つ選び、その番号をマークしなさい。 19

- 1 日本語の簡略化、単純化の傾向は方言や敬語を軽視する風潮を招いたが、差別語の消滅という望ましい結果ももたらした。
- 2 映像による情報は、文字情報の特徴である、時間と空間と記号の束縛から情報を解放し、文字情報に取って代わりつつある。
- 3 企業は社運を賭けて商品を命名してきたが、そのような姿勢が行き過ぎた結果、人名を商品名に使うようになってしまった。
- 4 敗戦当時の日本語に対する不信や不満は、言葉自体に向けられたもので、それがやがて映像による情報伝達へとつながった。
- 5 映像が時代の寵児になったとはいえ、映像による情報伝達は歴史が浅く、まだまだ文字による情報の膨大さには及ばない。

3 次の各問いに答えなさい。

問(一) 「試合」と熟語の読み方(音と訓の組み合わせ)が同じものを、次のうちから一つ選び、その番号をマークしなさい。

1

- 1 雨具
- 2 山車
- 3 物価
- 4 先手
- 5 夕立

問(二) 漢字の読みが間違っているものを、次のうちから一つ選び、その番号をマークしなさい。

2

- 1 潰(つぶ)れる
- 2 糜(すた)れる
- 3 綻(しな)びる
- 4 翻(ひるがえ)る
- 5 漏(も)れる

問(三) 熟語の読みが間違っているものを、次のうちから一つ選び、その番号をマークしなさい。

3

- 1 体裁(ていさい)
- 2 自負(じふ)
- 3 繁茂(はんも)
- 4 顕著(けんちよ)
- 5 必須(ひつしゅう)

問(四) 漢字の部首名が間違っているものを、次のうちから一つ選び、その番号をマークしなさい。

4

- 1 快(りっしんべん)
- 2 雑(ふるとり)
- 3 空(あなかんむり)

- 4 降（おおざと）
- 5 点（れつか）

問(五) 「茶飯事」の意味としてふさわしいものを、次のうちから一つ選び、その番号をマークしなさい。 5

- 1 ありふれていること
- 2 当たり前であること
- 3 造作ないこと
- 4 煩わしいこと
- 5 何気ないこと

問(六) 熟語の意味が間違っているものを、次のうちから一つ選び、その番号をマークしなさい。 6

- 1 泰然（物事に動じないさま）
- 2 敢然（思い切って行うさま）
- 3 凝然（うっとりしているさま）
- 4 毅然（意志が強く、しっかりしているさま）
- 5 忽然（にわかであるさま）

問(七) 四字熟語「朝□暮□」の空欄□・□に入る漢数字の組み合わせ（上・下の順）としてふさわしいものを、次のうちから一つ選び、その番号をマークしなさい。 7

- 1 一・二
- 2 二・三
- 3 三・四
- 4 四・五
- 5 五・六

問(八) 「混沌」の対義語としてふさわしいものを、次のうちから一つ選び、その番号をマークしなさい。 8

- 1 秩序
- 2 正常
- 3 抵抗
- 4 正義
- 5 順序

問九 「遺憾」の類義語としてふさわしいものを、次のうちから一つ選び、その番号をマークしなさい。

9

- 1 懸念
- 2 賛成
- 3 残念
- 4 非道
- 5 薄情

問十 動詞の活用の種類が他の四つとは異なるものを、次のうちから一つ選び、その番号をマークしなさい。

10

- 1 見える
- 2 起きる
- 3 捨てる
- 4 眺める
- 5 投げる

問十一 「ジレンマ」の意味としてふさわしいものを、次のうちから一つ選び、その番号をマークしなさい。

11

- 1 いざいざ
- 2 悩ましさ
- 3 食い違い
- 4 言い争い
- 5 板挟み

問十二 俳句の季語と季節の組み合わせとしてふさわしくないものを、次のうちから一つ選び、その番号をマークしなさい。

12

- 1 おぼろ月・春
- 2 七夕たなばた・秋
- 3 菜の花・夏
- 4 八十八夜・春
- 5 名月・秋

設問は以上です。